

編集後記

創刊号は、おかげさまで、御好評をいただきました。このような情報誌を新たに刊行したことに対する評価と理解していますが、本号からが本番と考えております。

第6回の共通1次試験も目前となりましたが、現行の共通1次試験の改善についても、当面、試験期日等の繰下げが具体化しつつあり、その他の事項も国立大学協会の第2常置委員会と入試改善特別委員会を中心に検討が進められています。大学入試センターとしては、本誌を含め、検討・討議の資料を積極的に提供していかなければならないと考えております。

本号では、現行制度の発足に当たり、国立大学協会の入試改善調査委員会委員として、この制度の創設の検討に当たられた、飯島宗一名古屋大学長のさる6月の国立大学入学者選抜研究連絡協議会第4回大会における公開講演「大学教育の理念と入試のあり方」の概要を改めて御整理いただき、また、現在、国立大学協会の入試改善特別委員会委員長として、現行制度の改善について検討に当たられている、松田武彦東京工業大学長にその現況をおまとめいただき、巻頭に掲載することができました。

事例紹介は、社会人入試の名古屋大学と、大学として独自にガイドブックを刊行されている愛媛大学の事例を紹介していただきました。今後、各大学から、このような事例を紹介したい、というお申し出も期待しております。

研究ノートでは、創刊号に引き続き解答分析（数学Ⅰ，英語）のほか、6件の研究状況について紹介しています。

本号の刊行に当たり、御多忙の中を御執筆いただきました、飯島、松田、稲子、浅田、永田、羽鳥の諸先生に厚くお礼申し上げます。